

●当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信／内外／資産複合／特殊型
信託期間	2014年6月17日から2024年5月31日まで。
運用方針	投資信託証券への投資を通じて、主に世界（日本を含みます。）の上場投資証券、有価証券指数先物取引、並びに金や原油等の商品先物取引等を投資対象とし、信託財産の中長期的な成長を目指して運用を行います。
主要運用対象	以下の投資信託証券を主要投資対象とします。 1. CIM・バリエブル・コリレーション・ストラテジー・ファンド 2. ファイブスター・マネープール・マザーファンド2
組入制限	投資信託証券への投資割合には制限を設けません。 株式への直接投資は行いません。 デリバティブ取引の直接利用は行いません。 外貨建資産への投資割合には、制限を設けません。
分配方針	毎年1回（11月25日。ただし、休業日の場合には翌営業日とします。）決算を行い、原則として次の通り分配を行う方針です。 1. 分配対象額の範囲は、経費控除後の利子・配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等の全額とします。 2. 分配金額は、委託者が基準価額水準・市況動向等を勘案して決定します。ただし、分配を行わないこともあります。 3. 収益分配に充てず信託財産内に留保した利益については、特に制限を設けず、運用の基本方針に基づき運用を行います。

ファイブスター・ バリコレ・ファンド

追加型投信／内外／資産複合／特殊型

運用報告書

第3期(決算日：2016年11月25日)

受益者のみなさまへ

平素は、格別のお引立てにあずかり厚く御礼申し上げます。

さて、「ファイブスター・バリコレ・ファンド」は、2016年11月25日に第3期決算を行いましたので、期中の運用状況をご報告申し上げます。

今後とも一層のご愛顧を賜りますよう、お願い申し上げます。

ファイブスター投信投資顧問株式会社

東京都中央区入船1-2-9 八丁堀MFビル8階

照会先

ホームページアドレス：<http://www.fivestar-am.co.jp/>

お客様デスク：03-3553-8711

(受付時間：委託会社の営業日の午前9時～午後5時まで)

[運用報告書の表記について]

- ・原則として、各表の数量、金額の単位未満は切捨て、比率は四捨五入で表記しておりますので、表中の個々の数字の合計が合計欄の値と一致しない場合があります。ただし、単位未満の数値について小数表記する場合があります。

★設定以来の運用実績

決 算 期	基 準 価 額			投資信託 受益証券 組入比率	ファイブスター・ マネーパール・ マザーファンド2 組入比率	純資産 総 額
	(分配落)	税込み 分配金	期 中 騰落率			
(設 定 日) 2014年6月17日	円 10,000	円 —	% —	% —	% —	百万円 588
1期(2014年11月25日)	9,959	0	△0.4	96.0	3.8	1,055
2期(2015年11月25日)	9,663	0	△3.0	93.9	4.7	1,688
3期(2016年11月25日)	8,063	0	△16.6	96.2	3.9	1,029

(注1) 基準価額の騰落率は分配金込みの数値です。

(注2) 当ファンドの運用方針に対し、適切に比較できる指数がないためベンチマークおよび参考指数などは設定しておりません。

(注3) ー印は該当がないことを示します。

★当期中の基準価額と市況等の推移

年 月 日	基 準 価 額		投 資 信 託 受 益 証 券 組 入 比 率	ファイブスター・ マネーパール・ マザーファンド2 組 入 比 率
	騰落率	騰落率		
(期 首) 2015年11月25日	円 9,663	% —	% 93.9	% 4.7
11月末	9,636	△0.3	93.8	4.7
12月末	9,589	△0.8	94.2	4.8
2016年1月末	8,886	△8.0	93.6	5.1
2月末	9,055	△6.3	95.8	3.1
3月末	8,629	△10.7	95.3	3.3
4月末	8,672	△10.3	95.2	3.3
5月末	8,554	△11.5	95.9	3.3
6月末	8,230	△14.8	95.8	3.4
7月末	8,370	△13.4	95.8	3.4
8月末	8,266	△14.5	96.3	3.4
9月末	8,252	△14.6	96.4	3.4
10月末	8,138	△15.8	96.0	3.5
(期 末) 2016年11月25日	8,063	△16.6	96.2	3.9

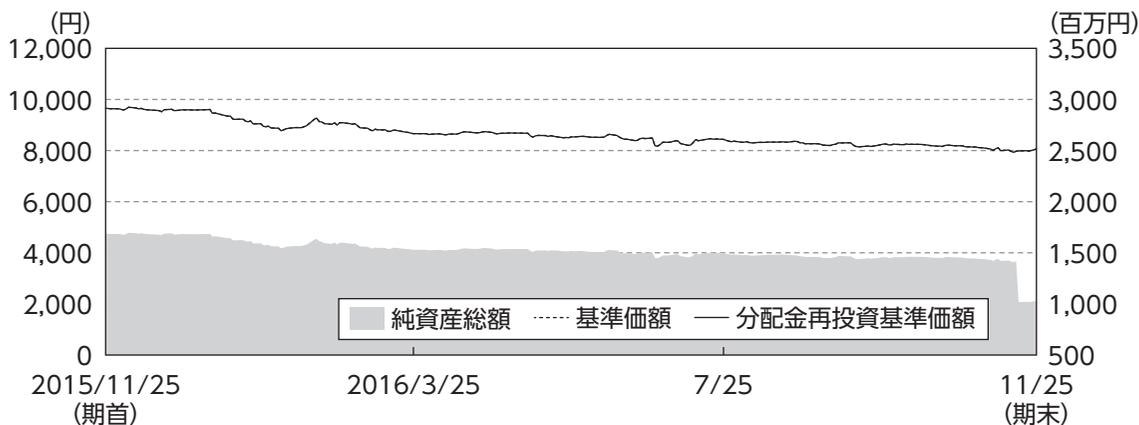
(注1) 期末基準価額は分配金込み、騰落率は期首比です。

(注2) 当ファンドの運用方針に対し、適切に比較できる指数がないためベンチマークおよび参考指数などは設定しておりません。

(注3) ー印は該当がないことを示します。

★運用経過

☆基準価額の推移



第3期首:9,663円

第3期末:8,063円(既払分配金0円)

騰落率:△16.6%(分配金再投資ベース)

(注1)分配金再投資基準価額は、収益分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

(注2)分配金を再投資するかどうかについてはお客様が御利用のコースにより異なり、また、ファンドの購入価額により課税条件もこととなりますので、お客様の損益の状況を示すものではありません。

(注3)分配金再投資基準価額は、2015年11月25日を基準価額に合わせて指数化しています。

☆基準価額の主な変動要因

上昇要因

- ・2016年2月:先月1月末に開かれた日銀金融政策決定会合ではマイナス金利の導入が決定されたことや米国経済に対する楽観論の後退から比較的安全資産とされる円の逃避需要などで、大幅に円高が進行し日本株が先月に続き月間-8.5%下落したことから、日本株式のショート(売り)ポジションが基準価額に対してプラス寄与となったこと
- ・2016年7月:米国の利上げ観測の後退から米国10年債利回りが過去最低を記録する低金利となったことや、BREXIT(英国の欧州連合からの離脱)後に予想より早くメイ英国新首相が選出されたことなどが好感され、世界的に株式が上昇したことから、米国株式や日本株式、新興国株式のロング(買い)ポジションが基準価額に対してプラス寄与となったこと

下落要因

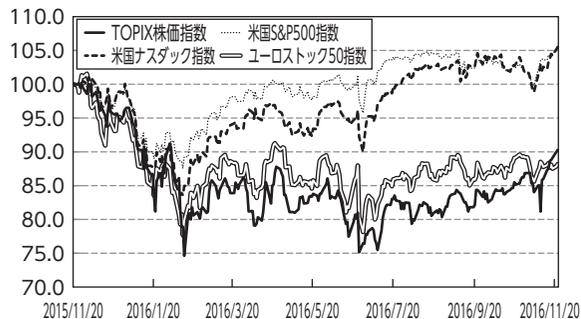
- ・2016年1月:2015年12月まで比較的堅調に上昇を続けてきた米国株や日本株が、サウジアラビアとイランが1月2日に国交を断絶したニュースを受けて原油が下落したことをきっかけに、S&P500指数(米国株の代表的な株価指数)が月間-5.1%、日経平均株価指数が月間-8.0%と共に急落したことから、米国株式と日本株式のロング(買い)ポジションが基準価額に対してマイナス寄与となったこと
- ・2016年6月:事前の予想に反して英国の国民投票でEU(欧州連合)離脱が可決され、将来に渡る経済的、政治的不透明感が広がり世界的な株安を引き起こしたことから、日本株式とドイツ株式のロング(買い)ポジションが基準価額に対してマイナス寄与となったこと

組入ファンド	基本組入比率	当作成対象 期間末組入比率	騰落率
CIM・バリアブル・コリレーション・ストラテジー・ファンド	95.0%	96.2%	△16.2%
ファイブスター・マネープール・マザーファンド2	5.0%	3.9%	△0.1%

(注)騰落率は分配金再投資ベースで計算しております。

☆市場概況

主要先進国株価指数の推移(現地通貨ベース)
2015年11月20日を100として騰落率を算出しています。



主要アジア株価指数の推移(現地通貨ベース)
2015年11月20日を100として騰落率を算出しています。



主要商品価格の推移(現地通貨ベース)
2015年11月20日を100として騰落率を算出しています。



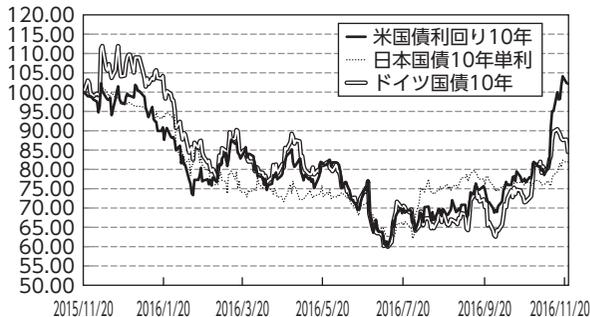
VIX指数の推移(現地通貨ベース)
2015年11月20日を100として騰落率を算出しています。



主要国通貨の推移(対米ドル)
2015年11月20日を100として騰落率を算出しています。



主要国債長期金利の推移
2015年11月20日を100として騰落率を算出しています。



当期は、アメリカの中央銀行であるFRB(連邦準備委員会)の金融政策や、原油価格、世界景気、世界情勢などの金融市場に影響を及ぼす重要な要因が頻繁に変化した結果、株式や債券、コモディティ、為替などの金融市場の勢いや方向性も頻繁に変化しました。

例えばFRBは、2015年末には2016年中に4回ほどの利上げ、すなわち合計では1%の利上げを行う事を自ら予想していましたが、紆余曲折の末、2016年に入ってから一度も利上げを行っておらず、12月に行われる今年最後のFOMC(連邦公開市場委員会)で今年初めての利上げが見込まれています。このFRBの利上げスタンスの頻繁な変化は、それ自体が原因となって金融市場への多大な影響を与えますが、一方これだけFRBの利上げスタンスが変化したのは、利上げを判断する為の材料、世界景気や世界情勢が2016年には頻繁に変化した事の反映でもあります。その結果、金融市場の多くでは上昇と下降を繰り返す局面が多く、また、これらが突然にしかも大幅に起こる場面が再三見られました。

2016年はサウジアラビアとイランが1月2日に国交を断絶したニュースを受け、原油が下落してこれによって米国株が下落する事で始まりました。更に中国の景気不安から中国株も大きく売られ、日経平均株価も下落しました。北朝鮮が水爆実験を敢行した事や、台湾総統選挙で台湾独立派の蔡英文氏が当選した事も、投資家のリスク意識を高めました。また、アメリカの中央銀行であるFRBがドル高をアメリカ景気に対するリスクとして指摘した事をきっかけとして円高ドル安が進行しました。

2016年の4月から6月にかけては、日経平均株価はさらに下落しましたが、これは円高ドル安の進行に大きく影響されました。また、6月末には事前の予想に反して英国の国民投票でEU離脱が可決された事(BREXIT)にも金融市場は悪影響を受けました。

2016年11月初旬に行われた米国大統領選挙では、事前の世論調査の結果に反して、ドナルド・トランプ候補が米国第45代大統領に選出されました。8年間続いた民主党政権下で十分な恩恵を受けなかった労働者層の不満に対してトランプ候補の語った夢に支持が集まった事、過去長きに亘って米国政治の中心で活躍してきたクリントン候補への批判票が結果に重要な影響を及ぼす州での勝敗を分けた事などが、予想外の結果となった原因と考えられます。

この大統領選に際しては開票が進むにつれて、安全資産と認識されている日本円が買われ、メキシコペソは下落しました。また、世界中の株価指数が急落し、リスク指数として知られるVIX指数が急上昇しました。しかし、トランプ氏の勝利演説では今までの過激な暴言は影をひそめ、選挙で分断されたアメリカ全体を一つにする事に注力する趣旨が強調された事に加えて、将来の米国の財政赤字の拡大に注目して米国金利が急上昇したことからドル高が進み、日本株は前日の下落分を1日で取り戻す激しい値動きとなりました。日本株のみならず世界の先進国の株式市場の大方では、トランプショックから極めて短期で立ち直りましたが、これは今年6月に英国のBREXITからの金融市場が比較的短期で回復した事を投資家が経験している事も原因と思われます。

☆運用概況

当ファンドの主要投資対象とする「CIM・バリアブル・コリレーション・ストラテジー・ファンド」に概ね95%程度、「ファイブスター・マネープール・マザーファンド2」に概ね5%程度の投資を行いました。

以下は、「CIM・バリアブル・コリレーション・ストラテジー・ファンド」の運用概況です。

資産配分

株式投資については、主に日本、米国、欧州などの先進国の株式に高めの配分としたほか、インドをはじめ新興国などにも投資を行いました。通貨については、日本円や豪ドル、カナダドルなどに投資を行いました。コモディティ等については、金や原油、プラチナ、シルバーの他、VIX指数(シカゴ・オプション取引所が、米国株S&P500指数を対象とするオプション取引のボラティリティを元に算出、公表している指数です。)などに投資を行いました。なお、各資産の投資(買いと売りを含む)については、それぞれの原資産と連動性が高い先物取引等を通じて投資を行いました。

資産選定

組入れ資産の選定については、分散投資を行いリスクの軽減を図りつつ、世界の資産の価格モメンタム(価格の勢い・方向性)を重視して機動的な資産配分を行いました。また、相場上昇時だけでなく、相場下落時の価格モメンタムも重視し、ショート(売り)を組み入れるなどの選定を行いました。

☆当該投資信託のベンチマークとの差異

当ファンドの運用方針に対し、適切に比較できる指数がないためベンチマークおよび参考指数などは設定しておりません。

☆分配金

運用の基本方針等を勘案し、収益分配金は見送らせていただきました。なお、留保金の運用については特に制限を設けず、元本部分と同一の運用を行います。

(1万口当たり・税引前)

項目	第3期	
	2015年11月26日～ 2016年11月25日	
当期分配金 (円)		—
(対基準価額比率) (%)		(—)
当期の収益 (円)		—
当期の収益以外 (円)		—
翌期繰越分配対象額 (円)		59

(注1)「当期の収益」及び「当期の収益以外」は、円未満を切り捨てて表示していることから、合計した額が「当期分配金」と一致しない場合があります。

(注2) 当期分配金の対基準価額比率は当期分配金(税引前)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注3) —印は該当がないことを示します。

★今後の運用方針

当ファンドは、チャータード・インベストメント・マネジャーズ・ピーティーイー・エルティーディーが運用を行う「CIM・バリエーション・コリレーション・ストラテジー・ファンド」(以下、ケイマン籍円建外国投資信託といいます)を主要投資対象とし、信託財産の中長期的な成長を目指して運用を行います。ケイマン籍円建外国投資信託では、世界の上場投資証券、有価証券指数先物取引、商品先物取引等への投資を通じて、世界各国(日本を含む)の株式、債券、金や原油などのコモディティ、及び、ボラティリティ指数等の幅広い資産へ、実質的に投資を行います。基本投資配分比率は、「ケイマン籍円建外国投資信託」95%程度、「ファイブスター・マネープール・マザーファンド2」5%程度とします。

★お知らせ

該当事項はございません。

☆1万口当たりの費用明細

項目	第3期		項目の概要
	(2015年11月26日~2016年11月25日)		
	金額(円)	比率(%)	
(a) 信託報酬	97	1.11	(a)信託報酬 = [期中の平均基準価額] × 信託報酬率 期中の平均基準価額は8,690円です。 信託報酬に係る消費税は当(作成)期末の税率を採用しています。 委託した資金の運用、基準価額の計算、開示資料作成等の対価 交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、 購入後の情報提供等の対価 運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(投信会社)	(47)	(0.54)	
(販売会社)	(47)	(0.54)	
(受託会社)	(3)	(0.03)	
(b) 売買委託手数料	—	—	(b)売買委託手数料 = $\frac{[期中の売買委託手数料]}{[期中の平均受益権口数]} \times 10,000$ 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う 手数料
(株式)	(—)	(—)	
(投資証券)	(—)	(—)	
(先物オプション)	(—)	(—)	
(新株予約権証券)	(—)	(—)	
(新株予約権付社債(転換社債))	(—)	(—)	
(投資信託受益証券)	(—)	(—)	
(c) 有価証券取引税	—	—	(c)有価証券取引税 = $\frac{[期中の有価証券取引税]}{[期中の平均受益権口数]} \times 10,000$ 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(株式)	(—)	(—)	
(投資証券)	(—)	(—)	
(先物オプション)	(—)	(—)	
(新株予約権証券)	(—)	(—)	
(新株予約権付社債(転換社債))	(—)	(—)	
(投資信託受益証券)	(—)	(—)	
(d) その他費用	24	0.28	(d)その他費用 = $\frac{[期中のその他費用]}{[期中の平均受益権口数]} \times 10,000$ 保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保 管及び資金の送金・資産の移転等に要する費用 監査費用は、監査法人に支払うファンドの監査に係る費用 印刷費用は、交付運用報告書等の作成・印刷・送付に係る費用、及び 信託財産計理業務に係る費用 その他は金銭信託への預入金額に対する手数料
(保管費用)	(—)	(—)	
(監査費用)	(5)	(0.06)	
(印刷費用)	(19)	(0.22)	
(その他)	(0)	(0.00)	
合計	121	1.39	

(注1) 期中の費用(消費税のかかるものは消費税を含む)は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。なお、売買委託手数料、有価証券取引税及びその他費用は、当ファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注2) 各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注3) 「比率」欄は、1万口当たりのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

(注4) ー印は該当がないことを示します。

(注5) 各項目の費用は、当ファンドが組み入れている投資信託証券が支払った費用を含みません(マザーファンドを除く)。当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当たりの費用明細」が取得できるものについては「組入ファンドの概要」に表示しております。

★売買および取引の状況（2015年11月26日～2016年11月25日）

投資信託受益証券

銘柄名		買付		売付	
		口数	金額	口数	金額
外国 (ケイマン)	CIM・バリアブル・コリレーション・ストラテジー・ファンド	口 54,351,927	千円 50,000	口 462,906,566	千円 380,000

(注) 金額は受渡金額です。

親投資信託受益証券の設定・解約状況

銘柄名		設定		解約	
		口数	金額	口数	金額
	ファイブスター・マネープール・マザーファンド2	千口 -	千円 -	千口 39,999	千円 40,000

★利害関係人との取引状況等（2015年11月26日～2016年11月25日）

期中における当ファンドに係る利害関係人との取引はありません。

(注) 利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

★組入資産の明細

投資信託受益証券

(2016年11月25日現在)

銘柄名	前期末	当期末		
	口数	口数	評価額	組入比率
	口	口	千円	%
CIM・バリアブル・コリレーション・ストラテジー・ファンド	160,387	119,532	990,085	96.2
合計	160,387	119,532	990,085	96.2

(注) 比率欄は純資産に対する比率です。

親投資信託残高

銘柄名	前期末	当期末	
	口数	口数	評価額
	千口	千口	千円
ファイブスター・マネープール・マザーファンド2	79,995	39,996	39,976

★投資信託財産の構成

(2016年11月25日現在)

項目	当期末	
	評価額	比率
	千円	%
投資信託受益証券	990,085	95.3
ファイブスター・マネープール・マザーファンド2	39,976	3.8
コール・ローン等、その他	9,217	0.9
投資信託財産総額	1,039,278	100.0

★資産、負債、元本及び基準価額の状況

(2016年11月25日)現在

項 目	当 期 末
(A) 資産	1,039,278,856円
コール・ローン等	9,216,659
ファイブスター・マ ネープール・マザー ファンド2	39,976,601
投資信託受益証券	990,085,596
(B) 負債	10,204,865
未払信託報酬	8,127,212
その他未払費用	2,077,653
(C) 純資産総額 (A-B)	1,029,073,991
元本	1,276,312,106
次期繰越損益金	△247,238,115
(D) 受益権総口数	1,276,312,106口
1万口当たり基準価額 (C/D)	8,063円

(注1) 当ファンドの期首元本額は1,747,428,257円、期中追加設定元本額は144,617,531円、期中一部解約元本額は615,733,682円です。

(注2) 1口当たり純資産額は0.8063円です。

(注3) 元本の欠損
当作成期末において貸借対照表上の純資産総額が元本を下回っており、その差額は247,238,115円です。

(注4) 当運用報告書作成時点では監査未了です。

★損益の状況

当期(2015年11月26日～2016年11月25日)

項 目	当 期
(A) 配当等収益	525円
受取利息	525
(B) 有価証券売買損益	△173,337,425
売買益	85,877,142
売買損	△259,214,567
(C) 信託報酬等	△21,060,426
(D) 当期損益金 (A+B+C)	△194,397,326
(E) 前期繰越損益金	△64,691,929
(F) 追加信託差損益金	11,851,140
(配当等相当額)	3,783,799
(売買損益相当額)	8,067,341
(G) 合計 (D+E+F)	△247,238,115
(H) 収益分配金	0
次期繰越損益金 (G+H)	△247,238,115
追加信託差損益金	11,851,140
(配当等相当額)	3,783,816
(売買損益相当額)	8,067,324
分配準備積立金	3,754,528
繰越損益金	△262,843,783

(注1) 損益の状況の中で(B)有価証券売買損益は各期末の評価換えによるものを含みます。

(注2) 損益の状況の中で(C)信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。

(注3) 損益の状況の中で(F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

(注4) 当運用報告書作成時点では監査未了です。

(注5) 分配金の計算過程

科 目	当 期 (2015年11月26日 ～2016年11月25日)
費用控除後の配当等収益額	0円
費用控除後・繰越欠損金補 填後の有価証券等損益額	0
収益調整金	3,783,816
分配準備積立金額	3,754,528
当ファンドの分配対象収益額	7,538,344
当ファンドの期末残存口数	1,276,312,106
1万口当たり収益分配対象額	59.06
1万口当たり分配金額	0
収益分配金金額	0

★分配金のお知らせ

決算期	第3期
1万口当たり分配金(税込み)	0円

◇分配金をお支払いする場合

- ・分配金は原則として決算日から起算して5営業日までにお支払いを開始します。

◇分配金を再投資する場合

- ・お手持り分配金は、各決算日の基準価額に基づいて、みなさまの口座に繰り入れて再投資いたします。

◇課税上の取扱について

- ・分配落ち後の基準価額が個別元本と同額または上回る場合は、分配金は全額普通分配金となります。
- ・分配前の基準価額が個別元本を上回り、分配後の基準価額が個別元本を下回る場合は、分配金は個別元本を上回る部分が普通分配金、下回る部分が元本払戻金（特別分配金）となります。
- ・分配前の基準価額が個別元本と同額または下回る場合は、分配金は全額元本払戻金（特別分配金）となります。
- ・元本払戻金（特別分配金）が発生した場合は、分配金発生時に個々の受益者の個別元本から当該元本払戻金（特別分配金）を控除した額が、その後の個々の受益者の個別元本となります。

◇受益者別の普通分配金に対する課税について

- ・個人の受益者：2014年1月1日以降は20.315%の税率
- ・法人の受益者：個人の受益者とは異なります。
- ・収益分配金のうち課税対象となるのは普通分配金のみであり、元本払戻金（特別分配金）は課税されません。

税制改正等により、課税上の取扱い内容が変更になる場合があります。

課税上の取扱いの詳細につきましては、税務専門家にご確認ください。

<補足情報>

★組入資産の明細

下記は、ファイブスター・マネープール・マザーファンド2全体（39,996千口）の内容です。

2016年11月25日現在、組入資産はありません。

<投資対象とする投資信託証券の概要>

ファンド名	CIM・バリアブル・コリレーション・ストラテジー・ファンド
ファンド形態	ケイマン籍外国投資信託／オープン・エンド型
投資方針・特色	①上場投資証券、有価証券指数先物取引、並びに金や原油等の商品先物取引等を主要投資対象とします。また、世界各国（日本を含む）の株式、債券、不動産投資信託、および、上場投資信託証券に直接投資を行う場合があります。 ②チャータード・インベストメント・マネジャーズ・ピーティーイー・エルティエディーが価格モメンタムに注目した計量モデルに基づいて、組入れ資産の選択や配分比率を最適化して運用を行います。 ③市況動向、資金動向によっては、上記のような運用が出来ない場合があります。
信託報酬等	純資産総額に対して年率0.50%（税抜 年率0.50%） ※その他、信託財産に関する租税、信託事務の処理に関する費用、組入れ有価証券の売買時の売買手数料、組入れているE T N等の管理費用、信託財産の監査に要する費用、外国投資信託の設立に係る費用、法律関係の費用、外貨建て資産の保管などに要する費用などがかかります。
実績報酬	日次の運用実績のハイウォーターマーク超過分に対して10%の実績報酬がかかります。
運用会社	チャータード・インベストメント・マネジャーズ・ピーティーイー・エルティエディー (Chartered Investment Management Pte Ltd)
受託会社	スミトモ・ミツイ・トラスト（ユークー）リミテッド (Sumitomo Mitsui Trust (UK) Limited)
管理事務代行会社	エスエムティー・ファンド・サービシズ（アイルランド）リミテッド (SMT Fund Services (Ireland) Limited)

<CIM・バリアブル・コリレーション・ストラテジー・ファンドの状況>

(2016年7月31日現在)

銘柄名	投資比率
EURO STOXX BANKS INDEX (EUX) SEP-16	3.27%
GERMAN DAX (EUX) SEP-16	4.17%
NIKKEI 225 (OSE) SEP-16	18.73%
MINI MSCI EMERGING MARKETS (EM) INDEX FUTURES	7.96%
AUSTRALIAN DOLLAR (CME) SEP-16	5.48%
CBOE VIX FUTURE (CBF) AUG-16	3.00%
E-MINI NASDAQ-100 (CME) SEP-16	10.24%
GOLD (CMX) DEC-16	6.86%
JAPANESE YEN (CME) SEP-16	9.75%
LIGHT SWEET CRUDE OIL (NYM) DEC-16	8.86%
PLATINUM (NYM) OCT-16	3.32%
SILVER (CMX) SEP-16	3.67%

(注1) 出所: Chartered Investment Management Pte Ltd

(チャータード・インベストメント・マネジャーズ・ピーティーイー・エルティエディー)

(注2) 投資比率はCIM・バリアブル・コリレーション・ストラテジー・ファンドの純資産に対する比率です。

CIM VARIABLE CORRELATION STRATEGY FUND
A SERIES TRUST OF CHARTERD MASTER TRUST

財務状態報告書
2016年7月31日

(単位：円)

資産

現金及び現金同等物	1,269,359,739
ブローカーからの未収入金	341,799,096
損益を通じて公正に評価した売買目的の金融資産	42,837,357
債務者からの債権	3,109,135
資産合計	<u>1,657,105,327</u>

負債

ブローカーへの未払金	201,902,998
損益を通じて公正に評価した売買目的の金融負債	32,942,747
債権者への債務	3,834,954
負債合計	<u>238,680,699</u>

株主に帰属する純資産

1,418,424,628

CIM VARIABLE CORRELATION STRATEGY FUND
A SERIES TRUST OF CHARTERD MASTER TRUST

包括利益計算書

2015年8月1日から2016年7月31日までの期間の間

(単位：円)

営業収入

現金残高の利息収入	35,392
損益を通じて公正に評価した売買目的の金融資産 及び金融負債からの純収入（純損失）	(301,990,519)
営業収入（損失）	<u>(301,955,127)</u>

営業費用

支払利息	1,744,073
信託報酬	2,400,000
マネージャー報酬	7,648,701
管理報酬	4,800,000
保管機関報酬	778,321
委託報酬	4,659,193
監査報酬	2,064,040
その他費用とその他経費	1,969,496
営業費用合計	<u>26,063,824</u>

包括利益（損失）

(328,018,951)

ファイブスター・マネープール・マザーファンド2

第2期運用報告書（決算日 2016年6月16日） （計算期間：2015年6月17日～2016年6月16日）

「ファイブスター・マネープール・マザーファンド2」は、2016年6月16日に第2期の決算を行いました。以下、法令・諸規則に基づき、当マザーファンドの第2期の運用状況をご報告申し上げます。

●当ファンドの仕組みは次の通りです。

信託期間	無期限
運用方針	主として国内通貨建ての短期公社債に投資することにより、安定した収益の確保をめざして運用を行います。
主要運用対象	国内発行体の公社債、転換社債、ユーロ円債、資産担保証券ならびにCD、CP、コールローン等の国内短期金融資産を主要投資対象とします。
組入制限	①外貨建て資産への投資は行いません。 ②株式への投資割合は、純資産総額の10%以下とします。 ③同一銘柄の株式への投資は、取得時において信託財産の純資産総額の5%以下とします。 ④同一銘柄の新株引受権証券および新株予約権証券への投資割合は、取得時において投資信託財産の純資産総額の5%以下とします。 ⑤新株引受権証券および新株予約権証券への投資割合は、取得時において、投資信託財産の純資産総額の5%以下とします。 ⑥投資信託証券（上場投資信託証券を除きます。）への投資割合は、投資信託財産の純資産総額の5%以下とします。 ⑦スワップ取引、金利先渡取引、有価証券先物取引等は約款の範囲で行う事ができます。 ⑧非株式割合については制限を設けません。

[運用報告書の表記について]

- ・原則として、各表の数量、金額の単位未満は切捨て、比率は四捨五入で表記しておりますので、表中の個々の数字の合計が合計欄の値と一致しない場合があります。ただし、単位未満の数値について小数表記する場合があります。

■設定以来の運用実績

決 算 期	基 準 価 額		債 組 入 比	券 率	純 資 産 額
	騰 落	中 率			
設定日(2014年6月17日)	円 10,000	% —		% —	百万円 23
1期(2015年6月16日)	10,001	0		—	86
2期(2016年6月16日)	10,000	0		—	56

(注1) 基準価額の騰落率は分配金込みの数値です。

(注2) 当ファンドの運用方針に対し、適切に比較できる指数がないためベンチマークおよび参考指数などは設定していません。

(注3) ー印は該当がないことを示します。

■当期中の基準価額と市況等の推移

年 月 日	基 準 価 額		債 組 入 比	券 率
	騰 落	率		
(期 首)	円	%		%
2015年6月16日	10,001	—		—
6月末	10,001	0		—
7月末	10,001	0		—
8月末	10,001	0		—
9月末	10,002	0		—
10月末	10,002	0		—
11月末	10,002	0		—
12月末	10,002	0		—
2016年 1月末	10,002	0		—
2月末	10,002	0		—
3月末	10,002	0		—
4月末	10,002	0		—
5月末	10,001	0		—
(期 末)				
2016年6月16日	10,000	0		—

(注1) 期末基準価額は分配金込み、騰落率は期首比です。

(注2) 当ファンドの運用方針に対し、適切に比較できる指数がないためベンチマークおよび参考指数などは設定していません。

(注3) ー印は該当がないことを示します。

■ 基準価額の推移

基準価額は、当作成期初の10,001円から当作成期末には10,000円となりました。基準価額は1円下落し、騰落率は▲0.01%となりました。

■ 投資環境

当期の国内短期金融市場は、国庫短期証券3ヵ月物から1年物まで、大幅に低下しました。日銀による大規模な量的緩和の継続、マイナス金利の導入決定などを背景に、1年未満の国庫短期証券利回りはゼロ%からマイナス水準で推移しました。今期末におきましても1年以下の国庫短期証券の利回りは、3ヵ月物で▲0.261%、1年物で▲0.418%水準となりました。有担保コール（翌日物）の利回りは、およそ0%から▲0.01%の水準で推移しました。

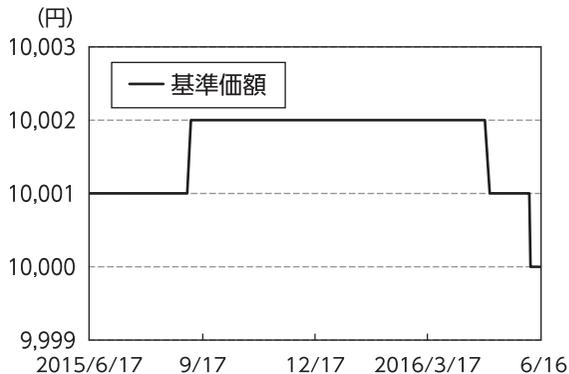
■ 運用概況

国庫短期証券の利回りは、日銀による大規模な量的緩和の継続、マイナス金利の導入決定などを背景に、ゼロ金利及びマイナス金利の市場環境下となりました。当期間は、国庫短期証券の利回り水準が軒並みマイナス利回りに陥ったため、有担保コール（翌日物）での運用を行いました。その後、日銀が2016年1月にマイナス金利付き量的・質的金融緩和の導入を決定したことから、2016年2月より当期末作成期末時点では、マイナス金利の対応として無利息金銭信託への放出としました。

■ 今後の運用方針

主として、ファイブスター・マネープール・マザーファンド2への投資を通じて、国内発行体の公社債、転換社債、ユーロ円債、資産担保証券ならびにCD、CP、コールローン等の相対的に安全性の高い国内の短期金融資産を主要投資対象として、投資信託財産の安定した収益の確保を目指して運用を行います。

○ 基準価額の推移



■ 1万口（元本10,000円）当たりの費用の明細

項目	第2期		項目の概要
	2015年6月17日～2016年6月16日		
	金額	比率	
(a) 売買委託手数料	円	%	(a) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数×10000 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(株式)	(－)	(－)	
(投資証券)	(－)	(－)	
(先物オプション)	(－)	(－)	
(新株予約権証券)	(－)	(－)	
(新株予約権付社債（転換社債）)	(－)	(－)	
(投資信託受益証券)	(－)	(－)	
(b) 有価証券取引税	－	－	(b) 有価証券取引税＝期中の有価証券取引税÷期中の平均受益権口数×10000 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(株式)	(－)	(－)	
(投資証券)	(－)	(－)	
(先物オプション)	(－)	(－)	
(新株予約権証券)	(－)	(－)	
(新株予約権付社債（転換社債）)	(－)	(－)	
(投資信託受益証券)	(－)	(－)	
(c) その他費用	1	0.01	(c) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数×10000 保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管及び資金の送金・資産の移転等に要する費用 監査費用は、監査法人に支払うファンドの監査に係る費用 印刷費用は、交付運用報告書等の作成・印刷・送付に係る費用、及び信託財産計理業務に係る費用 その他は、金銭信託への預入金額に対する手数料
(保管費用)	(－)	(－)	
(監査費用)	(－)	(－)	
(印刷費用)	(－)	(－)	
(その他)	(1)	(0.01)	
合計	1	0.01	
平均基準価額	10,002		

(注1) 期中の費用（消費税にかかるものは消費税を含む）は、追加・解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注2) 各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注3) 「比率」欄は1万口当たりのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

(注4) 一印は該当がないことを示します。

■ 売買及び取引の状況 (2015年6月17日～2016年6月16日)

当該期間での売買および取引はございません。

■ 利害関係人との取引状況等 (2015年6月17日～2016年6月16日)

期中における利害関係人との取引はございません。

(注) 利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人等です。

■ 組入資産の明細 (2016年6月16日現在)

当期末時点における組入資産はございません。

■ 投資信託財産の構成 (2016年6月16日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
コ ー ル ・ ロ ー ン 等 、 そ の 他	56,005	100.0
投 資 信 託 財 産 総 額	56,005	100.0

(注) 評価額の単位未満は切り捨て。

■ 資産、負債、元本及び基準価額の状況 (2016年6月16日現在)

項 目	当 期 末
	円
(A) 資産	56,005,093
コール・ローン等	56,005,093
(B) 負債	2,757
その他未払費用	2,757
(C) 純資産総額(A-B)	56,002,336
元本	56,001,004
次期繰越損益金	1,332
(D) 受益権総口数	56,001,004口
1万口当たり基準価額(C/D)	10,000円

(注1) 当ファンドの期首元本額は85,995,006円、期中追加設定元本額は0円、期中一部解約元本額は29,994,002円です。

(注2) 2016年6月16日現在の元本の内訳は以下の通りです。

ファイブスター・バリコレ・ファンド： 50,001,603円
 柏崎応援ファンド(一般投資家私募)： 5,999,401円

(注3) 1口当たり純資産額は1.0000円です。

■ 損益の状況 (2015年6月17日～2016年6月16日)

項 目	当 期
	円
(A) 配当等収益	6,730
受取利息	6,730
(B) 信託報酬等	△10,195
(C) 当期損益金(A+B)	△3,465
(D) 前期繰越損益金	10,795
(E) 解約差損益金	△5,998
(F) 合計(C+D+E)	1,332
次期繰越損益金	1,332

(注1) 損益の状況の中で(B)信託報酬等とあるのは、金銭信託へ預け入れた際の手数料となります。

(注2) 損益の状況の中で(E)解約差損益金とあるのは、一部解約をした価額と元本との差額をいい、元本を下回る場合は利益として、元本を上回る場合は損失として処理されます。

上記各資産の評価基準及び評価方法、また収益及び費用の計上区分等については、法律及び諸規則に基づき、一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して評価計上処理しています。

■ お知らせ

該当事項はありません。